

ISSN 2433-7013

# 日本リハビリテーション教育学会誌

## 第5巻 特別号1号 2022年

第14回 日本リハビリテーション教育学会学術大会

大会テーマ：専門職教育におけるカリキュラム・マネジメントの再考

日時：2022年1月8日（土）

会場：国際医療福祉大学 小田原保健医療学部

（住所：神奈川県小田原市城山 1-2-25）

大会長：森田 正治（国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 理学療法学科）

NPO:Rehabilitation Academic center (RAC)

The Society of Japan Rehabilitation Education

## 第14回日本リハビリテーション教育学会学術大会（小田原）

テーマ：専門職教育におけるカリキュラム・マネジメントの再考  
2022年1月8日（土）

国際医療福祉大学 小田原保健医療学部（神奈川県小田原市城山 1-2-25）

ZOOM 情報：https://zoom.us/j/96059498338（13：15より入室可）

ミーティング ID：960 5949 8338 パスコード：odawara8

開会 堀本ゆかり（日本リハビリテーション教育学会）

13:35 教育講演 「専門職教育におけるカリキュラム・マネジメントの再考」

国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 理学療法学科長 森田 正治 先生・・・1  
座長：国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 後藤 純信

15:10 一般演題 I（口述発表）

座長：福岡国際医療福祉大学 医療学部 池田 拓郎

1. 理学療法学科学生の「やり抜く力」について

国際医療福祉大学 保健医療学部 理学療法学科 松本 千晶・・・2

2. 5因子性格検査（FFPQ）と学業成績との関連

学校法人岩永学園こころ医療福祉専門学校 三根 立己・・・3

3. 臨床実習指導者の指導スキルに対する学生の満足度と MCTQ 日本語版との関係

医療法人瑞心会 渡辺病院 福永 康祐・・・4

4. 理学療法士の認知領域・精神運動領域における苦手意識に関する調査

葛西昌医会病院 蜂須 祐二郎・・・5

座長：国際医療福祉大学 保健医療学部 小野田 公

5. 勤務施設における理学療法士の新人教育に関する実態調査

社会医療法人社団三思会 どうめい厚木クリニック 四宮 明宏・・・6

6. コンピテンシーから見た学生指導指標の検討

専門学校 静岡医療科学専門学校 原 真子・・・7

7. 理学療法臨床実習生の実習満足度調査～実習終了後のアンケート調査より～

国家公務員共済組合連合会 佐世保共済病院 大津 救亨・・・8

閉会 森田 正治（第14回日本リハビリテーション教育学会 大会長）

## 専門職教育におけるカリキュラム・マネジメントの再考

国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 理学療法学科  
森田正治

1999（平成 11）年に改正された指定規則は、大綱化と単位制導入を柱としていたが、当時から教育課程が大学、短大、専門学校（3 年制、4 年制）と多岐にわたっていたことから、学校養成施設によって教育内容にかなり偏りがあることが指摘されていた。これまでわが国の理学療法学教育には、依拠すべき教育ガイドラインがなく、厚生労働省による国家試験の出題内容を提示した「国家試験出題基準」があるのみであった。このため、学校養成施設における具体的な教育目標の設定やレベルの規定も不明確であったため、教育の質をより向上し、一定水準の質を維持するとともに、教育内容を再編成して多様化を図る必要があった。本来、教育の自由裁量は望ましいことであるが、専門職の教育においては、ある一定レベルの教育水準を維持するための方策を統一する必要があった。

2004（平成 16）年から日本理学療法士協会の教育部が中心となり、包括的な「教育ガイドライン」作成の作業に向けた委員会が発足した。2006（平成 18）年には専門領域のみの教育ガイドライン（試案）が作成され、2009（平成 21）年には専門基礎領域も含めた教育ガイドライン（0 版）の作成を経て、2010（平成 22）年 4 月に教育ガイドライン（1 版）が完成した。この教育ガイドライン（1 版）は、具体的な教育内容を包括的に提示しており、学校養成施設が独自の教育理念や特色に合わせたカリキュラムを設定するために活用することが推奨された。この中で、指定規則 93 単位のうちの 83 単位相当の科目について、理学療法学モデル・コア・カリキュラムを提示している。

2018（平成 30）年 10 月の指定規則改正を受け、個々の科目を学修項目として提示するだけでなく、課程修了時の到達目標を目指し、理学療法士のコアとなる学修項目は何かを、社会に提示していくことを目的とし、2019（平成 31）年 1 月に理学療法学教育モデル・コア・カリキュラムが改定された。このモデル・コア・カリキュラムは、すべての学校養成施設の学修時間の概ね 7 割が構築できるものとして策定されている。また、残りの 3 割の学修内容については、各学校養成施設独自に設定するディプロマポリシーに基づいた教育が編成されることが求められている。教育目標を達成するために大切なことは、第一に、学校養成施設としての具体的な教育目標を掲げ、各教科を越えた視点で一体的なカリキュラムを構成すること。第二に、教育の質向上に向けて、P（教育課程の作成）、D（授業の実施）、C（学修成果の確認）、A（授業の改善）のサイクルを回し、検証作業の過程を設けること。第三に、教育活動に必要な人や資源を学内にとどまらず、地域とも連携を図りながら効率的に組み合わせること。以上の 3 点である。つまり、専門職教育におけるカリキュラム・マネジメントとは、社会が求める専門職学生のコンピテンシーを明確にし、教科を横断した教育課程の編成に加え、教育課程の実施に必要な学内外の人的・物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことで、学生の主体的な学習スタイルを構築し、深い学びの成果を挙げることにある。ここで学校養成施設のカリキュラム・マネジメントを充実させることは、新たな取り組みを追加することではない。学校養成施設の様々な業務の効率化を図ることにより、カリキュラム・マネジメントの充実につなげていくことが何よりも大切である。

## 【一般演題 1】

### 理学療法学科学生の「やり抜く力」について

松本 千晶<sup>1)</sup>，久保 晃<sup>2)</sup>，糸数 昌史<sup>2)</sup>

1) 国際医療福祉大学 保健医療学部 理学療法学科 2) 国際医療福祉大学大学院

【目的】理学療法学部生がどの程度 Grit を有しているのかについて調査することによって、現学生の「やり抜く力」を明らかにすること。そのうえで、やり抜く力と情意領域の項目である自尊感情（自己に対する肯定的な態度）の関連性の検討を行う。それら知見は今後の学生教育に有益であると考えられる。

【方法】①調査期間および参加者 2021年9月から10月に、栃木県内の理学療法士養成校（4年課程）1校の研究参加に同意の得られた学部生388名②質問紙構成 質問紙は無記名とし性別、学年の基本的属性の他に、日本語版 Short Grit 尺度、自尊感情尺度、受験時に利用した入試形態、現在の通学形態、自身の現在の生活への主観的評価、褒められた経験の有無、実習先や学校での教職員からの被指導経験の有無（3、4年生のみ）を聴取した。③統計解析ソフト IBM 社製 SPSSver27 を使用した。

【倫理的配慮】本研究は、研究目的、方法、参加は自由意思で拒否による不利益はないこと、及び、個人情報保護について、文書と口頭で説明し同意を得た。また、国際医療福祉大学研究倫理審査委員会の承認を得た。（承認番号：21-Ig-103）

【結果】理学療法学科学生の Grit スコアは  $3.09 \pm 0.55$ 、自尊感情尺度点数は  $25.29 \pm 5.32$  であり、2項目の相関係数は  $0.262 (p < 0.05)$  であった。Grit スコアと自尊感情尺度得点は4学年間で差はみられなかった。

【考察】Grit スコア、自尊感情尺度点数において、失敗も成功も含めた課題克服体験や努力した過程が重要である。一時的な点数の高低による評価では学生の実際に持つ「やり抜く力」や情意領域において精神が安定しているかは評価しきれないと考えられる。

【結論】Grit スコア、自尊感情尺度点数ともに縦断的に評価し、理学療法士養成教育では OSCE や実習等を経た時に極端に上下しないかについて観察を続ける必要がある。また、GPA や試験結果などの客観的指標との擦り合わせも必要である。

## 【一般演題 2】

### 5 因子性格検査 (FFPQ) と学業成績の関連

三根 立己<sup>1)2)</sup>, 新谷大輔<sup>1)2)</sup>, 森田正治<sup>2)</sup>

1) こころ医療福祉専門学校 2) 国際医療福祉大学大学院

#### 【目的】

文部科学省の調査によると、専門学校の退学者は毎年1万人を上回る水準で推移し、退学理由は、学力不振・学生生活不適応・学習意欲低下が30%以上を占めている。その傾向は、理学療法士養成校でも類似しており、特に、学業不振に伴う退学の意向を示す学生との関りは教員の課題となっている。学力や知能指数などの賢さに関する認知的スキルより非認知的スキルが社会的成功に結びつきやすいと言われている。心理学領域では、ビッグファイブ理論の性格特性に応じた非認知的スキルの側面が示されており、学生の性格特性を把握しつつ、学習習慣や学習法について介入することは教育的意義があると考えられる。

#### 【方法】

令和3年度にこころ医療福祉専門学校理学療法科に在籍している78名の学生を対象とし、5因子性格検査(以下FFPQ)を実施し、学業成績(以下GPA)との関連性を確認した。FFPQとGPAとの関連はPearsonの積率相関分析を用い、その後、GPAとFFPQ25項目について因子分析を行った。なお、本研究は国際医療福祉大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

#### 【結果】

FFPQにおける共感非共感、几帳面大まか、執着無執着、責任感無責任はGPAと正の相関を認められた。因子分析の結果、6つの因子が抽出され、第1因子は、心配性のんき、抑うつ非抑うつ、自己批判自己受容、自己統制衝動、気分変動気分不安、空想実際、緊張弛緩、几帳面大まか、奔放堅実が関与していた。第2因子は、責任感無責任、執着無執着、計画無計画、GPA平均、几帳面大まか共感非共感が関与していた。第3因子は、支配服従、注意獲得回避、活動非活動、群居独居が関与していた。第4因子は、他者尊重自己尊重、温厚冷淡、芸術関心無関心、共感非共感、興奮追求回避、内的敏感鈍感が関与していた。第5因子は、興奮追求回避、進取保守、奔放堅実が関与していた。第6因子は、群居独居、信頼警戒、競争協調が関与していた。

#### 【考察】

GPAとFFPQの共感非共感、几帳面大まか、執着無執着、責任感無責任で正の相関を認め、因子分析では、第2因子にGPA平均が含まれていることから、GPAと責任感無責任、執着無執着、計画無計画、几帳面大まか、共感非共感が関係していると考えられる。

#### 【結論】

GPAには、性格的因子のうち責任感や辛抱強さ、計画性や几帳面さ、共感が関係していた。

### 【一般演題 3】

## 臨床実習指導者の指導スキルに対する学生の満足度と MCTQ 日本語版との関係

福永 康祐<sup>1)</sup>, 堀本ゆかり<sup>2)</sup>, 藤本幹<sup>2)</sup>

1) 渡辺病院 2) 国際医療福祉大学大学院

### 【目的】

認知的徒弟制に基づく the Maastricht Clinical Teaching Questionnaire (MCTQ) 日本語版は、臨床実習指導者の指導力を評価する尺度である。本研究の目的は、作業療法教育に於いて指導スキル満足度と MCTQ 日本語版との関係を明らかにすることである。

### 【方法】

2021 年 4 月 1 日から 9 月 30 日までに少なくとも 1 回以上総合臨床実習を経験した満 20 歳以上の作業療法学科の学生 66 名とした。研究デザインは、横断研究とし、西城氏に使用許諾を得て MCTQ 日本語版を中心に無記名の Web 調査を実施した。

### 【倫理的配慮】

本研究は、国際医療福祉大学倫理審査委員会より承認を得て（承認番号 21-Ig-54）実施している。

### 【結果】

指導スキル満足度と MCTQ1-14 合計、MCTQ 合計点（点）、指導者概略評価、モデル合計、コーチング合計および明確化合計との間に有意な正の相関がみられた。

指導スキル満足度の不満群/満足群の 2 群間に於いて、MCTQ 日本語版の 5 大項目の各合計点の満足群が不満群より有意に高かった。

### 【考察】

相関分析より、指導者スキル満足度と MCTQ 日本語版との関連があることが分かった。看護師教育と同様に、作業療法教育に於いても、認知的徒弟制に基づく指導のステップで導入から足掛かりを作る段階で主に学生から指導を求められている可能性が示唆された。

2 群間の差の検定より、指導スキル満足度とモデル合計の関係について、看護師教育と同様に、作業療法教育に於いてもモデリングが学生の不安の軽減に作用した可能性が考えられた。指導スキル満足度とコーチング合計との関係について、看護師教育と同様に、作業療法教育に於いても指導者は、コーチング・スキルを習得して効果的な指導を行うことが求められていると考えられた。指導スキル満足度と明確化合計との関係について、看護師教育と同様に、作業療法教育に於いても長所を伸ばす指導に優れているほど、指導スキル満足度が高くなる可能性が考えられた。

### 【結論】

作業療法教育に於いて、学習者の MCTQ 日本語版への回答が指導者の指導スキルの内省の一助になることを期待したい。

## 【一般演題 4】

### 理学療法士の認知領域・精神運動領域における苦手意識に関する調査

蜂須 祐二郎<sup>1)</sup>, 堀本 ゆかり<sup>2)</sup>, 小野田 公<sup>2)</sup>

1) 葛西昌医会病院 2) 国際医療福祉大学大学院

#### 【目的】

認知領域・精神運動領域では解剖学、運動学、生理学の専門基礎分野、そして専門分野での神経筋障害、骨関節障害、内部障害等多岐にわたる。本研究は若手理学療法士の苦手意識の傾向を明らかにすることを目的とした。

#### 【方法】

対象は医療機関に勤務する1～3年目の理学療法士とした。方法は、Google Formsを使用し、Web上でのアンケート調査を実施した。内容は学生時・就職後苦手意識があった専門分野、評価技術では専門基礎分野3項目・基礎理学療法評価10項目・脳卒中7項目・運動器5項目・内部障害8項目とした。基本統計量を集計後、①学生時・就職後の苦手意識の変化を対応のあるT検定、②各経験年数の平均値の比較を一元配置分散分析にて行った。

#### 【倫理的配慮】

本研究は「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする医学的研究に関する倫理指針」を遵守し行った。研究説明書にて研究説明を行い、Webでの質問紙への回答を持って同意とした。研究にあたり国際医療福祉大学倫理審査委員会の承認を得て実施された(2021年8月25日承認 承認番号21-Ig-78)。

#### 【結果】

苦手意識があった分野は学生時・就職後とも脳卒中、内部障害が多い結果となった。統計結果では、全体の平均値ではほとんどの項目で「苦手である」が多かったが、経験年数別の比較で1・2年目では全体の平均値より低値であり、3年目より全ての項目で平均値より高値となった。3年目での学生時・就職後との比較でも33項目中22項目で苦手意識軽減に有意差があった。しかし、専門分野脳卒中3項目・内部障害4項目で苦手が残存する傾向となった。

#### 【考察】

専門基礎分野・基礎理学療法評価・専門分野運動器において、勤務領域に影響されずに苦手意識が軽減するには経験年数3年程度必要と考えられた。しかし、就職後3年目でも専門分野脳卒中・内部障害で苦手意識は残存した。理由では病態の複雑さと評価の解釈、治療手段など総合的な判断が必要なものは苦手と感じる傾向があった。

#### 【結論】

基礎的な理学療法・運動器疾患は3年目より苦手意識は軽減しており、臨床経験で獲得しやすい。しかし、脳卒中・内部障害では3年目の時点でも苦手意識が残存しており、若手理学療法士の苦手意識を解決する教育的支援が必要と考えられた。

## 【一般演題 5】

### 勤務施設における理学療法士の新人教育に関する実態調査

四宮 明宏<sup>1)2)</sup>, 堀本 ゆかり<sup>2)</sup>, 小野田 公<sup>2)</sup>

1) 社会医療法人社団三思会 どうめい厚木クリニック

2) 国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 医療福祉教育・管理分野

#### 【目的】

理学療法士の勤務施設における新人教育は、教育計画が不足しており、指導者の経験則による偏った指導法が行われていると指摘されている。本研究は、各勤務施設における理学療法士の新人教育に関する計画と指導者教育の実態を調査し、課題を分析することを目的とした。

#### 【方法】

本調査に同意の得られた理学療法部門の新人教育統括者を対象とし、アンケート調査を実施した。内容は、施設の属性、新人教育計画の有無、新人教育に関する考え（自由記述）とした。各調査項目を単純集計し、自由記述項目は頻出する内容を抽出して集計した。また、施設属性、所属人数、新人採用人数で群分けし、それぞれで比較した。

#### 【倫理的配慮】

国際医療福祉大学倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号:21-Ig-63）。

#### 【結果】

計 58 件の回答が得られた。教育目標、具体的な達成目標、勤務内の教育時間の割り当てがある施設は 7 割以上であった。教育の評価がある施設は約 6 割、指導者教育がある施設は 4 割未満であり、新人教育全体の充足感は 10 点満点で  $5.3 \pm 2.1$  点であった。各群分けの比較では、全ての項目で有意差を認めなかった。新人教育に関する考えとして、「教育方法が個々の指導者に委ねられている」、「教育にあてる時間が不足している」、「対象者を第一に考える、自ら考え行動できる新人に育てて欲しい」との意見が得られた。

#### 【考察】

結果より、指導者教育のある施設は少なく、指導者個人の経験則に依存した教育が行われている実態が推察された。また、職場環境を考慮した教育計画の作成や、専門的な技能以外に関する教育的支援の必要性も示唆された。これらを解決し、より良い新人教育を行うためには、有効な教育計画を明らかにし、指導者教育を行うことが必要と考えられる。



## 【一般演題 6】

### コンピテンシーから見た学生指導指標の検討

原 真子<sup>1)</sup>，堀本 ゆかり<sup>2)</sup>，丸山 仁司<sup>2)</sup>

1) 静岡医療科学専門大学校 2) 国際医療福祉大学大学院

#### 【目的】

近年、少子化による大学入学容易化や理学療法士養成校の増加によって様々な特性の学生が入学するようになり、養成校では社会人基礎力やコミュニケーション面での指導が増えている。日本理学療法士協会理学療法教育ガイドライン（第0版）では卒前教育の到達目標を提示しているが、どのような行動が出来る学生を育成していくかについては明確に提示されていない。行動特性についてコンピテンシーという定義があり、職務に関連した知識や技術に関する行動特性の総称であると定義されている。理学療法士のコンピテンシーを可視化して示すことが出来れば、そこを目標として学生指導が出来るのではないかと考えた。しかし、理学療法士の高業績者を特定することは難しく、先行研究では理学療法士の行動特性が明らかにされていない。そこで本研究では卒前の教育に着目し、学業や臨床実習において優秀な成績を修めた学生の行動特性を明らかにし、ロールモデルとして学生指導指標を検討することを目的とした。

#### 【方法】

3年制理学療法士養成校に在籍中の3年生39名、評価実習、総合臨床実習を経験した者を対象とした。方法は文化放送キャリアパートナーズ社製コンピテンシー診断「SPROUT」を実施し、学内成績、臨床実習成績とコンピテンシー診断結果との関係を見た。統計処理にはMicrosoft Excelの統計分析を使用した。

#### 【倫理的配慮】

対象者には文面と口頭にて研究の主旨を説明し同意を得た。承認番号：R3-09号。

#### 【結果】

学内成績とコンピテンシーの結果に差は見られなかった。臨床実習成績とコンピテンシーの結果について総合臨床実習I期の「きちんとやる力」において差が見られた。臨床実習で指導を多く要した学生のコンピテンシー結果は平均値よりも低値を示す特性領域があった。

#### 【考察】

本研究より、学生に求められる行動特性はどの特性も平均値を越え等しく広がっていくことが求められているとわかる。学生指導を考える上で、行動特性の六角形が等しく大きくなっていくよう、カリキュラムや授業内容の工夫を目指していくと良いと考える。

#### 【結論】

今回のコンピテンシーは事後に調査しているが、事前に調査をし、学生の特性を把握することで実習に向けて指導介入が出来るのではないかと考える。また、個人のコンピテンシーの変化を生活環境や学習環境の変化と合わせて観察していくことで早期から支援が出来ると思う。

## 【一般演題 7】

### 理学療法臨床実習生の実習満足度調査 ～実習終了後のアンケート調査より～

大津 救亨<sup>1)</sup>, 堀本 ゆかり<sup>2)</sup>, 丸山 仁司<sup>2)</sup>

1) 国家公務員共済組合連合会 佐世保共済病院 2) 国際医療福祉大学大学院

【目的】本研究の目的は、理学療法臨床実習生の実習満足度を明らかにし、そしてその満足度は、性差や実習形態、総合的満足度の違いにより差が生じるのかを検証し考察していくことである。

【方法】A養成校の理学療法学科最終学年94人へGoogle formsによるWEBアンケートを利用して、臨床実習の満足度について調査した。調査内容は、臨床実習の総合満足度と、満足度との関連が予測される5項目（評価・治療・コミュニケーション・指導者との関係・実習環境）の合計30問とした。

【倫理的配慮】全対象者に、参加の有無は自由であり、学内成績に影響はないことを含めて研究の趣旨と方法について事前に説明を行い、同意を得たうえで無記名回答として調査を行った。

【結果】全員からアンケートを回収し、男性67人、女性27人、平均年齢22±4.5歳であった。実習形態は診療参加型実習（以下、CCS）を受けた学生が45人でそれ以外が45人、総合満足度では満足群が75人、非満足群が19人という結果であった。30の質問項目で探索的因子分析を行い、28項目4因子が選定された。それぞれ、テクニカルスキル・指導者との関係・実習環境・コミュニケーションスキルと命名した。因子ごとに下位尺度得点を算出し、性差、実習形態・総合満足度の違いにより比較検証を行った。その結果、性差は認めず、実習形態ではCCS群においてテクニカルスキルへの満足度が有意に高いこと、総合満足度においては満足群が非満足群に比べてすべての因子において満足度が有意に高いことが認められた。

【考察】CCSでは教育者指導のもと、見学—模倣—実施というスタイルによって臨床実習が展開され、臨床実習生は教育者の臨床思考過程を共有したうえで、評価や治療の実践を行えるようになってきている。これにより、自身で考え、行動し、振り返りと修正を繰り返すサイクルを学んだ経験が、テクニカルスキルの満足度が高い要因につながったのではないかと考えた。また、総合満足度においては、満足群の最も高い得点と非満足群の最も低い得点はいずれも指導者との関係であり、指導者との関係に対する満足度が、他の因子の満足度に影響を与えている可能性が示唆された。

【結論】臨床実習満足度を高めるには、CCSの採用、そして実習指導者と臨床実習生の良好な関係の構築が欠かせないことが示唆された。それと同時に、実習指導者との関係が臨床実習生のストレスファクターとなり得ることも示唆されたため、お互いの歩み寄りや相互尊重を基本姿勢として臨床実習は展開されるべきであると考えられる。

第14回 日本リハビリテーション教育学会学術大会

---

---

会長 堀本 ゆかり(理学療法士)

委員 丸山 仁司(理学療法士)  
柗 幸伸(理学療法士)  
鈴木 真生(言語聴覚士)  
寺田 佳孝(教育学)  
小野田 公(理学療法士)  
鈴木 啓介(理学療法士)  
佐藤 珠江(理学療法士)  
和田 三幸(理学療法士)  
後藤 純信(医師)

---

---

---

---

編集:NPO 法人リハビリテーション学術センター  
日本リハビリテーション教育学会

〒173-0004  
東京都板橋区板橋 1-11-7-901  
日本リハビリテーション教育学会 事務局

2022年1月5日発行

URL<http://rehaac.org/professional.html>

---

---